

(昭和三年八月五日—十一日 確信)

(昭和三年八月五日—十一日發信)

イタリー綿業の概観

紡績機械五百

中部イタリ一
計
四、八九五、一〇〇
一五三、一三〇
萬錘織機十四臺

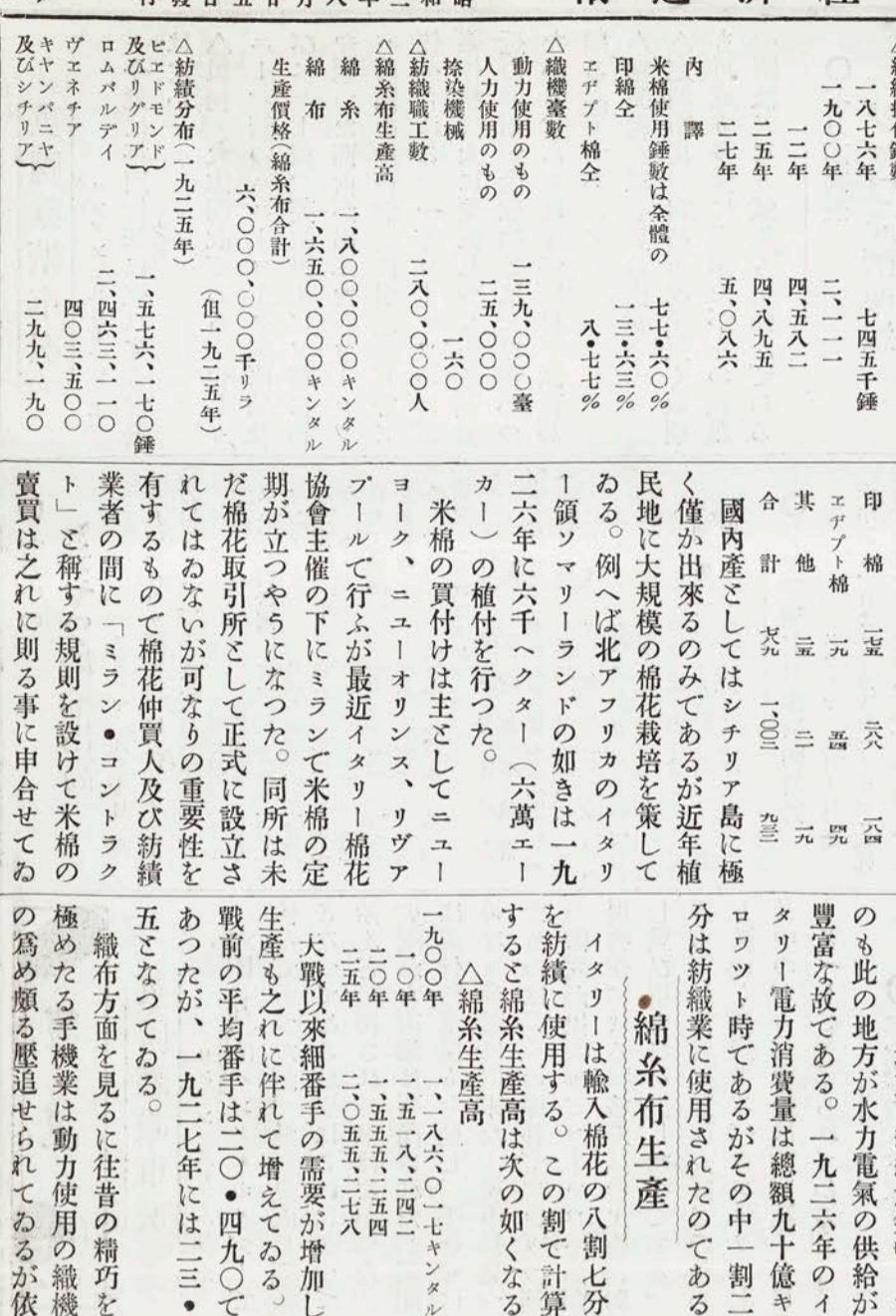
たのは比較的近代の事で漸く百年位にしかならぬ。その内でも最も發達の目覺したつたのは一九〇四年から一九〇八年迄の四ヶ年でその間に錘數は約二百萬錘より四百萬錘と二倍近くの増加を示した。今イタリー綿業發達の跡及びその現状を示す數字を一束して示すと

イタリーは原棉を他國に仰がねばならぬ。主なものはアメリカ埠であるが大戰以來は他の國の棉が多く買ひ付けるやうになつた。原棉消費高は次の如く増えてゐる。

る。賣買の紛争は棉花協會任命の仲裁機關が一定の規則に従つてこれを解決する。この「ミラン・コントラクト」と「ミラン・アービットーション」及びその附帶規則などで棉花市場の機能は少しの遲滯なく行はれてゐる。

然一部にはその命脈を保ち、極く精巧なる裝飾品の製造に當つてゐる。約二十年以前には手機臺數は六萬臺もあつたが今日ではイタリ一全國で漸く二萬乃至二萬五千臺しかない。工場數にすると手機工場が四十三、手機と動力併用のも

も下等より上等へ數限りなく種類
がある。而してこれが輸出は左記
に示すが如き數量に上る。



漂白 染色 摶染 飾出し等の仕上げ加工はイタリーの得意とする所で、この點は非常に強味がある。イタリーには二百七十二の染色工場があるが、それ等は孰れもイタリ一人の専門家を使ひ、大部分イタリー製の染料を使つてゐる。使用職工は約一萬六千人、その八割四分は男工である。又摶染工場は廿九、捺染機械百六十、非常に精巧な品が出来るからイギリス品に比べて遜色を見ぬ。

仕上 げ加工業	△綿布生産高	一申もの	二申もの
二六年	一九二一年	貿九、〇〇〇	一五、三〇〇
二九年	二五年	五九、九〇〇	三五、三九〇
二六年	二六年	三五、六六六	二五、六六六

合計	一、〇一〇	二、九九 三、七〇	七、五〇	三、三六 四〇、六六
イタリイ綿製品の中どんなんも				
が多く輸出されるかと云ふに、				
色、捺染を施した製品が頭抜け				
多い。これをバーセントにして				
ギリスと比較するご左の通りで				
△英伊輸出比較	イタリー 四%	イギリス 二六%	生地綿布	

の染てイア（一九〇二年）
綿業團體で中心的勢力を占めるものは棉花同業會（Associazione Cotoniera）で一八九五年設立、會員數は六百名以上ある。是はイタリー内地の綿業に關係ある諸問題の研究を主なる業務とする。而して仲裁委員を設けて原棉賣買に關する紛爭を調停する。又マンチエスターの國際仲裁委員會にも代表者を出してゐる。（萬國紡織聯合會報
一月號に據る）

○本誌定價一部金一圓(半ヶ年)廿六週分郵稅共金貳拾圓)

發行所 大阪市東區北濱五丁目十二番地

新聞聯合社大阪支社

電話本局二二〇〇番三八四〇〇番
振替貯金口座大阪六八〇〇〇番

編輯發行兼印刷人

東川嘉一